

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 305 〔腹中之書〕 ふくちゅうのしょ

< 意味 > 腹の中に書物がたまっている意。広い知識をもっていることを自慢する言葉。

< 出典 > 『世説新語』<sup>せせつしんご</sup> 排調<sup>はいちよう</sup>

< 故事 > 晋の郭隆<sup>かくりゆう</sup>は、七月七日の日に腹を出してあお向けになっていた。人がわけを尋ねると、「今日は虫干しの日だから、私は自分の腹の中の書物を虫干ししているのだ」と答えたという故事から。

表 言： 腹中の書をさらす

一 言： 第二次世界大戦の終戦時、昭和天皇がラジオを通じて国民に向けて詔勅を発しました。その草案を書いた安岡正篤の著書『百朝集』に「五八 六中観」という項目があり、その中に「腹中・書有り。」という言葉があります。備考には、目にとめたとか、頭の中の滓のような知識ではなく、腹の中に納まってをる哲学のことである。とあります。私にはどうてい及ばないことですが、この「腹中・書有り」を座右の銘の一つにしています。

参考文献： 岩波書店「四字熟語辞典」 致知出版社「百朝集」